



ネムノキ

公園や歩道や車道の横に植えられているネムノキやニセアカシアの葉はキタキチョウの幼虫の食べ物になります。



ニセアカシア

芦屋川の土手や公園、歩道の植え込みの下などでよくみかけるヨモギは、ヒメアカタテハの幼虫の食べ物です。



ヨモギ



ヒメアカタテハの幼虫

わたし せいぶつたようせい 私 たちと生物多様性

わたしの生活は、たくさんの種類の生き物にささえられています。

その生き物たちも、また別のたくさんの種類の生き物とつながって生きています。そのような多様な種類の生き物が生きることができる環境を守っていくことは、私たちにとっても、とても大事なことだといえます。

今回、芦屋で見ることができるチョウから生物多様性について考えてみました。植物の種類が多いと、芦屋で育つことができるチョウが増えること。庭や公園にたくさんの種類の花がさいていたり、広い草地があると、花のみつを吸って食事をしたり、オスとメスが出会って遊んだりすることができます。低木の街路樹や生垣などがあれば、安心して夜眠ることができます。このように、いろいろな環境が存在することがチョウにとって大事なことがわかりました。これは、ほかの生き物にとってもおなじです。

これからも私たちは、芦屋の豊かな自然環境を大切にしていくとともに、私たちを含む生物の多様性を保つことができるような、持続可能な社会を目指していく必要があります。

さいごに

今回の冊子は、芦屋市が「西宮自然保護協会」に依頼した市内の生き物調査の記録に基づいて作成しました。ぜひ、近くの公園や芦屋川に遊びに行った時には、チョウや幼虫を探してみてください。

この冊子を作るにあたり、多大な助言と指導をいただきました、「兵庫県立 人と自然の博物館」主任研究員の八木剛先生に、厚くお礼申し上げます。また、写真を提供くださいました「伊丹市昆虫館」や「西宮自然保護協会」の方々にも心よりお礼申し上げます。

写真提供：伊丹市昆虫館、西宮自然保護協会

参考資料：芦屋市内動物種調査業務委託報告書、

「知ろう・伝えようおおさかの生物多様性」〔発行・大阪府 編集・地独
大阪府立環境農林水産総合研究所〕

「芦屋市のチョウと生物多様性」

令和2年3月発行

発行	芦屋市市民生活部環境課 〒659-8501 芦屋市精道町7番6号 TEL 0797-38-2051
監修	兵庫県立 人と自然の博物館 主任研究員 八木 剛 氏
印刷・製本	グランド印刷株式会社



アサギマダラ



ベニシジミ